

先達世話人問答

特43

524

大日本圖書會社			
四	二	三	東
四	二	七	新
一	四	函	四
冊	號	架	一
			二

014323-000-1

特43-524

先達世話人問答

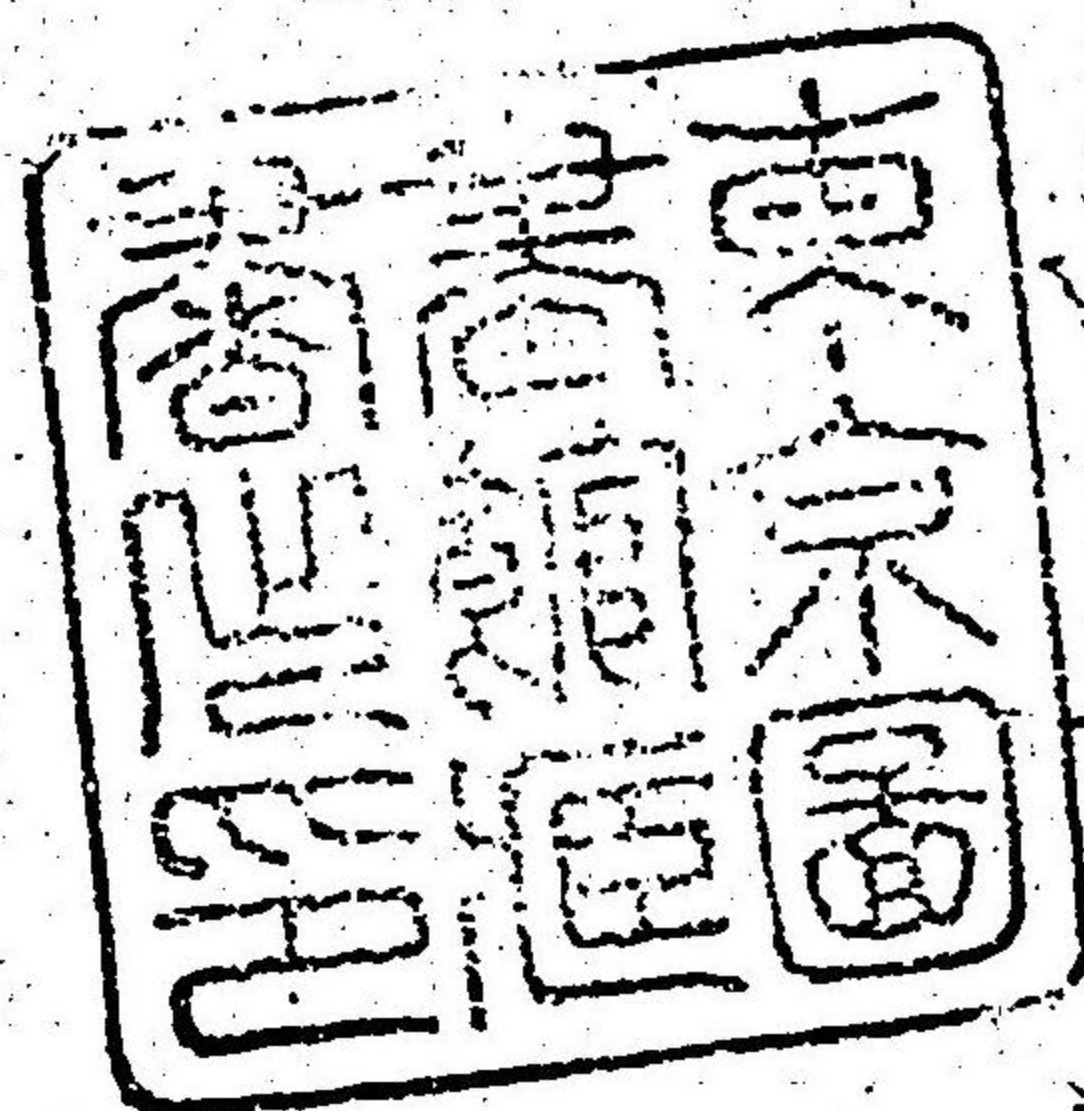
鳴沢 清音/著

M11

ABB-0668



先達世語入問答

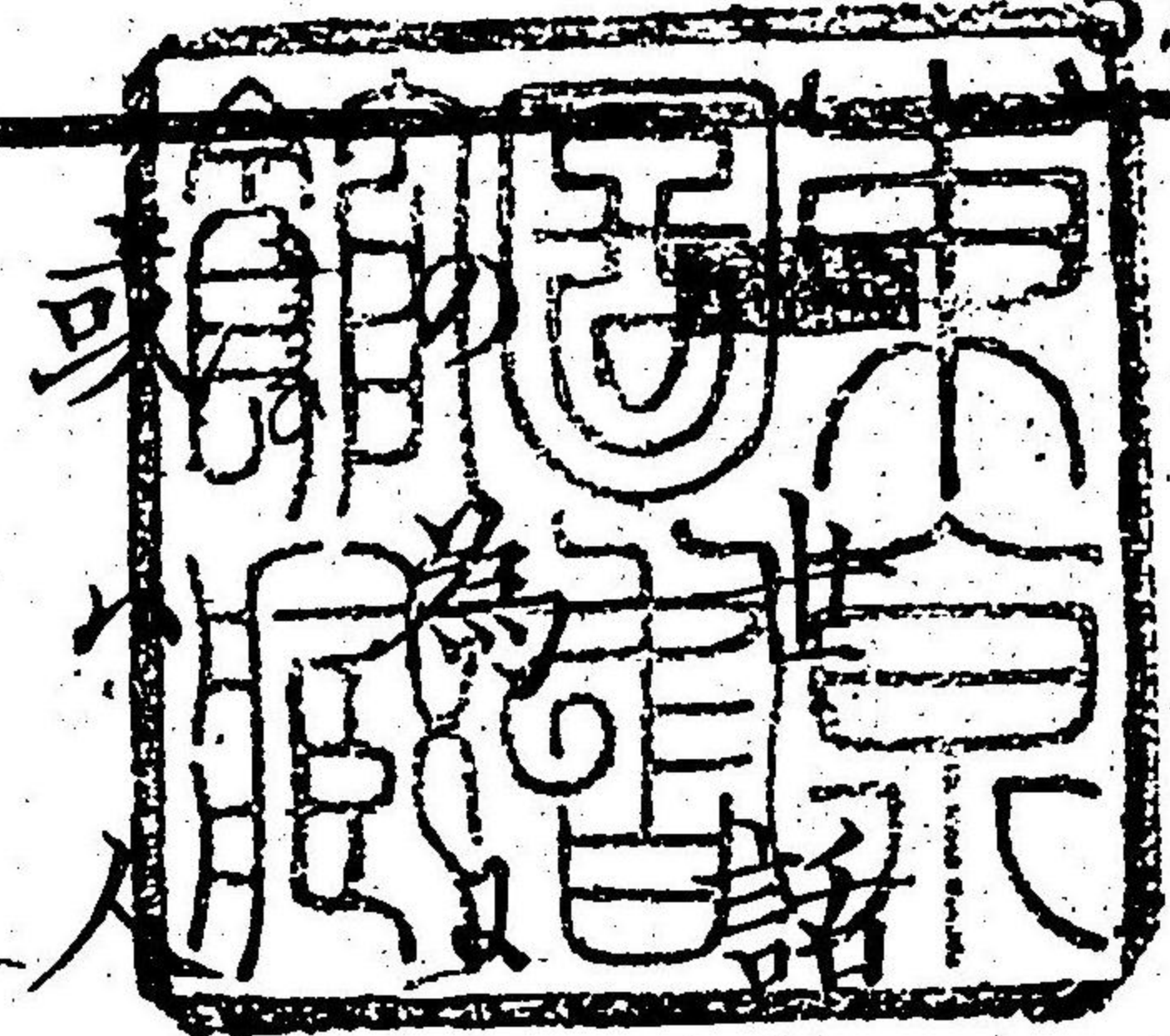


先達世話人間答

鳴澤清音述

人間とよ問とよて曰先達の何

毎年富士の登山の一



穴とよへ小詣まゐり給ふや

●先達答とよへて曰富士山の我

本教の元祖の大祖の參ちか

先達世話人間

神を信仰し給ふ靈跡ふれ
我等も其靈跡を履て講
中相共ふ大祖參神の御惠
を蒙むらんとして登山致
し人穴ふの報恩の爲ふ詣るあり
大祖參神の御惠を蒙ら
む爲ふれば其神徳亦そ兼

て御咄何るべき大祖參
神の廣大無邊の神徳の平
常談話もあし給ひ社中
集會する毎ふ富士山の名
所古跡のと談話致され山
案内小限れる彼の強力
は等しき者と云ふべし以

後^ごも大^{だい}祖^そ參^{さん}神^{しん}の神^{しん}德^{とく}を談^{だん}
話^わし給^{たま}ひて佛^{ぶつ}者^{しゃ}耶^や蘇^そ信^{しん}者^{しゃ}
をも感^{かん}服^{ふく}せんことを教^{しやく}給^{たま}へり
云^いはる如^{ごと}く尋^{しん}問^{もん}の人^{にん}
何^{なに}れバ格^{かく}別^{べつ}真^{しん}宗^{そう}の門^{もん}徒^と平^{へい}
常^{じょう}彌^み陀^だの物^{もの}語^ごハ亦^{また}そも本^{ほん}
願^{がん}寺^じの堂^{どう}塔^{たつ}を談^{だん}る者^{しゃ}亦^{また}
願^{がん}寺^じの堂^{どう}塔^{たつ}を談^{だん}る者^{しゃ}亦^{また}

真^{しん}言^{ごん}宗^{そう}の檀^{だん}徒^と光^{こう}明^{めい}真^{しん}言^{ごん}亦^{また}
ハアビラウンケンハ誦^{じゆ}讀^{どく}
亦^{また}高^{こう}野^や山^{さん}の途^と往^{やう}を常^{じょう}
談^{だん}よ亦^{また}凡^{ぼん}者^{しゃ}亦^{また}日^{にち}蓮^{れん}宗^{そう}徒^と
の平^{へい}常^{じょう}座^ざ卧^ゐ小^{せう}題^{だい}目^{もく}を唱^{とな}ふ
るも身^み延^{えん}山^{さん}の骨^{こつ}堂^{どう}を語^ごり
て講^{かう}中^{ちゆう}を結^{けつ}ぶ者^{しゃ}亦^{また}我^{われ}等^ら

も先達とありて講社を結
び餘多の衆生を導く不於
てい方今神道諸宗相共不
競起り耶蘓教すても次第
小蔓延の勢ひ之れ有る不
依り彼より壓倒されぬや
ろ小開山元祖の御本意不

基づき大祖參神の陰陽を
調理一萬物を造化一給ふ
靈妙不思議の神徳を諭示
せんことゝ固より存念あり
■ 鈴を携へ珠數を首不掛
け行衣よ赤黒の印を押
開山元祖よりの仕來あるや

●開山元祖の御肖像を見
 られよ鈴珠數をば携給
 ぬ元來富士山小於て鳴物
 の嚴禁ある證據の天正十
 七年小山田信有の印書よ
 騮ケ馬場の上々小鳴物古
 より法度の事小候間此段

可心得者也とあるあり亦
 行衣小赤黒の印を捺し給
 ふこととあり全中昔より
 弊風ふれれば御互よ漸々
 開山元祖の用ゐ給ひし神
 服相用ひ然るべきあり
 小御嶽と申すい如何か

事はよや
 ● 小御嶽の近頃より
 立よして小御嶽山神と祢
 一り元祖御在世の頃
 如く巍
 々たる社宇を建立して磐
 長姫命を祭たるものおれ

関係は藤原武邦尊師の御教
 丸尾の胎内ハ何頃小顯
 ● 今を去る千有餘年の昔
 人皇五十六代清和天皇の
 御代貞觀年中富士山炎焼

の時とき小こ金かね氣けと土つち石いしと湧もよほ流なが
れ大おほい木き倒たふれたて其その上うへ小こ流なが積つみ流なが
りて一いつ奇き穴あなを為なす一いつ多おほる物もの
ふして神かみ造つく物ものふふ非あらざるあり
■藤原武邦尊師ふじはらむくにのうやまの教しよの富とみ
士し嶽たけ神かみ社やしろ淺間せんま神かみ社やしろふとふ
教しよ基もとの關かん係けいああるるものものののよよや

●關かん係けいせしものものふ非あらざるあり我われ
の教しよのの大おほ祖おきな參まゐ神かみを尊うやまま信しんん也なり

■富士嶽神ふじのたけのかみ社やしろ并ならび淺間せんま神かみ社やしろ

社の祭まつり神かみの如ごと何なにの神かみああるるや

●富士嶽神ふじのたけのかみ社やしろの齋さい神かみの木き

花はな開ひらく耶や姫ひめ命のみこと彦ひこ穗ほ瓊たま々々藝ぎ命のみこと

大山津見命の三神おほやまつみのみことかゝりて
 大宮の浅間神社おほみやのあさまのまのやしろの木花開このはなのさく
 耶姫命の一神やひめのみこと須走すはしの浅間あさま
 神社の木花開耶姫命彦火このはなのさくやひめのみことひこ
 火出見命大己貴命ひいでのみことおほおのちのみことの三神
 須山すやまの大宮おほみやと同神おなじみみても
 一ずは也

頂上薬師社の祭神くわんじやうのやくしやのまつりかみ如何いかんふや
 薬師社の齋神やくしやのさいじんの大己貴おほおのちのみこと
 命少彦名命みことすくはひのみことの二神ふたみことよりて
 表おもて口浅間社くちのあさまのまのやしろの大宮おほみやと同神おなじみ

富士山中の神社ふじのやまの何れいづれ
 古ふるき物ものあるや
 八

● 大宮淺間神社の人皇十
代崇神天皇の御代今
大宮を距る二里ハウモ麓
山宮村ニ祀リ給ヒ一を人
皇五十代桓武天皇の御代
大同年中ハ征東將軍坂上
田村麻呂今の大宮ハ遷

奉まつりたる物もの一々其外の淺
間社富士嶽神社ハ何れも
夫それより近ちかき世よのものあり
● 木花開耶姫命ハ何方うらハして
御誕生ごたんじん一々あるものハや
● 夫神瓊々とくしんじゆんじゆん藝命ぎのたまの縁故えんこよ
之これを徴しるせられバ蓋けい一今

の薩摩國ふて御誕生あり
物あるべし既に先哲の
櫻精神の説られど別論
られれば此云り
先達世話人の教會所
對して勤むべき義務ありや
●大祖參神の大徳は據り

我が講社を結ぶと雖ども
畢竟安心ありて信仰ある
の我等は壓制なきや
盡力して教會之れ有るの
故あり然れば人民より治
國の爲ふ政府は貢稅を
と深淺の差別はれざる

分の義務を盡さば有る
べらば如何とあれば政
府の人民統御の廳教會所
の信仰自由を得せしむる
の大基あれば彼の年の耶
蘇の如きハ教費をば年貢
よりも重むるを以て其教

の邪あるも熾盛をかせる
を思ふても御互小教會小
對し應分の義務ハ十分小
勤多く存るふり

明治十一年七月廿五日出版届濟

山梨縣平民

著述兼出板人

鳴澤清音

東京芝神明町
北壹番地寄留

